

## 平成18年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	工業分野におけるファカルティ開発の実践的研究 ～教員のスキルモデルと研修体系の構築を中心として～		
法人名	学校法人コンピュータ総合学園		
学校名	神戸電子専門学校		
代表者	理事長 福岡 富雄	担当者 連絡先	油谷 元洋 TEL 078-242-0014

### 1. 事業の概要

本事業では、専門学校の教育力の向上を目的とするファカルティ開発の取り組みを推進した。具体的な事業実施内容として、教員の系統的かつ段階的なスキルアップを支える仕組みとしての「教員スキルモデル」と「研修体系」を策定すると共に、「研修プログラム」の開発を行った。研修プログラムは、全ての教員にとって共通基盤的なスキルの修得を目的とする内容となっている。研修プログラムの開発後には、専門学校教員を対象（被験者）とする実証講座を行い、その有用性の検証も試みた。また、教員スキルモデル・研修体系のデザインに際して必要となる各種情報の収集を狙いとする調査研究も行った。このような事業活動の推進を通して、専門学校におけるファカルティ開発の先導的なモデルを構築し、これからの専門学校教育の改善と向上に資することを目的とした。

### 2. 事業の評価に関する項目

#### ①目的・重点事項の達成状況

ファカルティ開発に関する取り組みは今回が初めてであったが、全体としては当初に計画した水準以上の成果を取りまとめることができた。教員スキルモデルと研修体系は、職業人教育に従事する専門職に焦点を絞ったものであるが、類例も少なく、今後のファカルティ開発の発展的活動の有用な検討材料を提供することができたと考えられる。

また、開発した研修プログラム「エデュケーションのコミュニケーション」は、全ての教員にとって共通基盤的なスキルがテーマであり、その内容は工業分野のみならず様々な分野の専門学校においても活用が可能なものとなっている。その意味では、教員研修の言わばベースラインに相当するプログラムであり、今後の更なる活動につながる成果である。

#### ②事業により得られた成果

本事業では、教員スキルモデルと、それに対応して策定した研修体系で定義した、研修内容の一部より構成された研修プログラムを設計、開発した。具体的には、緊急性や重要性が高く、かつ多くの教員に共通的に適用できる領域を論点として検討を進め、研修体系の「共通基盤」カテゴリのレベル1・2教員向けに相当する研修プログラム「コミュニケーション」の開発を行った。

ここでは、教員に求められる高度で柔軟なコミュニケーションスキルを修得させることが狙いとされており、全ての教員に共通する「インストラクションスキル」を支える基盤スキルに相当している。この研修は、講義だけではなく、ロールプレイによる参加型の演習を多く取り入れ、実践を通して学ぶことに力点が置かれている点が特徴となっている。

### ③今後の活用

今後は、本事業の成果物を、学内での教員研修に活用すると共に、内容面のブラッシュアップを継続的に  
行っていく計画である。また、今回は着手できなかった他の領域やスキル項目をテーマとする研修プログラ  
ムの新規開発も検討する考えである。

### ④次年度以降における課題・展開

本事業活動を通じて実感されたことのひとつは、ファカルティデベロップメントの推進には相応のパワーが必  
要であり、これを専門学校一校が単独で担うことの難しさである。従って、今後の展開にあたっては、他の専  
門学校との連携体制の構築なども視野に収めながら、具体的な検討を進めていく必要があると考えられる。

## 3. 事業の実施に関する項目

### ①ニーズ調査等

本事業では、職業人の教育訓練担当者の職能要件や職務類型、スキル・コンピテンシーなどのガイドライン  
やスキル定義に関する国内外(米国、英国、日本)の事例について調査を実施した。これにより、教員スキル  
モデルを検討する上で有用な基礎資料を整備することができた。併せて、ワーキンググループにゲストスピー  
カを招聘する形で、産業界が期待する卒業生像についてのヒアリング調査を実施した。その結果は、学生モ  
デルという形でまとめられている。

また、ファカルティデベロップメントを実践している大学について、国内外の事例調査を行った。これにより、  
専門学校がファカルティデベロップメントの具体的な内容を検討する上で参考となる基礎資料を整備するこ  
うができた。

### ②カリキュラムの開発

事業にて実施した調査結果などを基に、専門学校教員の職務類型と要求される知識・スキルについて整理  
を行い、定義した教員スキルモデルに対応した研修体系の策定を行った。策定した研修体系では、教員を  
職能や役割に応じて4段階にレベル分けし、各レベルで必要となる研修内容を定義した。それらについて研  
修プログラムの設計・開発を行った。

研修プログラム開発では、事業期間の関係上、全てに相当する研修プログラムを開発することはできないた  
め、緊急性や重要性が高く、かつ多くの教員に共通的に適用できる領域を論点として検討を進め、研修体系  
の「共通基盤」カテゴリのレベル1・2教員向けに相当する研修プログラム「コミュニケーション」を開発した。こ  
こでは、教員に求められる高度で柔軟なコミュニケーションスキルを修得させることが狙いとされており、全ての  
教員に共通する「インストラクションスキル」を支える基盤スキルに相当する。この研修では講義だけではなく、  
ロールプレイによる参加型の演習を多く取り入れ、実践を通して学ぶことに力点が置かれている。

### ③実証講座

平成19年3月2日・3日の2日間(各7時間)で専門学校の教員24名を対象として、神戸電子専門学校において  
実施した。他に、オブザーバとして、実施委員、分科会委員、事務局が参加した。

本事業の実証講座は、受講者(被験者)の満足度や学習効果などを評価することによって研修プログラムの  
妥当性や有用性を検証することを目的として実施した。

実施後の検証結果からは、高い満足度や学習成果を確認することができた。また、研修プログラムの内容や  
学習の進め方(ロールプレイ演習など)に対する受講者の受け止め方も肯定的であり、当初に計画していた  
水準の内容に仕上がっていることの確証が得ることができた。

### ④その他

本事業で策定した研修体系自体は、新任教員(レベル1)から最上位のベテラン教員(レベル4)までの各レベ  
ルでの研修内容を扱った研修群であり、その全てに相当する研修プログラムを開発することはできないため、  
事業期間で開発可能な対象領域の絞り込みを行い、研修プログラムの開発を実施した。

具体的には、緊急性や重要性が高く、かつ多くの教員に共通的に適用できる領域を論点として検討を進め、  
研修体系の「共通基盤」カテゴリのレベル1・2教員向けに相当する研修プログラム「コミュニケーション」の開発  
を行った。